

# 身近に関節リウマチによる 手・足の変形でお困りの人は いませんか？

**Q** 関節リウマチで  
変形した手・足  
の変形を医師に  
相談しても、一旦変形  
したものは治らないと  
言われてしまいました。  
何とかありませんか？

手外科医、足の外科医の存在をご存知でしょうか。形成外科、整形外科、皮膚科なら知ってるけど、そんな診療科知らないよ。多くの人がそのように認識しておられるでしょう。現在、厚生労働省(日本専門医機構)での新専門医制度で認定している19基本領域診療科には手、足の名称を持つ専門医はありません。リウマチすらありません。その下のサ

ブスペシャルティ専門医に手外科専門医やリウマチ学会専門医はあります。残念ながら足の外科はまだ学会専門医すらありません。しかし、日本足の外科学会と日本フットケア・足病学会があり、それら学会に所属して地道に足の診療に従事している医療従事者はいます。

さて、そんな昨今の我が国の医療事情のお話から入って恐縮ですが、今回は関節リウマチによる手・足の変形の治療についてお話しさせていただきます。以前、関節リウマチは不治の病とされ、重篤な機能障害ばかりでなく、その生命予後すら悲惨なものでした。近年の薬物治療の進歩は著しく、関節リウマチの疾患コントロールが可能とな

り、日常生活動作(ADL)や生命予後は著しく改善しました。しかし、手・足は関節リウマチの初発部位であることが多く、しかも、他の大関節は薬物治療で変形進行が防止されても手・足の小関節は変形進行が完全には防止されないため、関節リウマチの罹患年数とともに手・足の変形が進行する場合があります。また、従来、手・足の変形の治療どころではなかった関節リウマチの患者さんが、最近の薬物治療の進歩により元気となり、手・足の治療に向かう余裕ができたとも言えるでしょう。治療には基本的に手術が必要です。手・足では麻酔法が部分麻酔(伝達麻酔、局所麻酔)で可能な場合が多く、

入院手術が基本的には好ましいのですが、場合によって日帰り手術も可能です。手・足の手術は各パーツが細かいため、原則拡大鏡視下の手術になります。当形成外科では岐阜市民病院で開設10年が経過し、手術用顕微鏡、手・足専用のミニCアーム(小型X線透視装置)、ポータブル超音波装置、小関節鏡視下手

術器具が整備され、手・足に特化した手術が可能となっております。手術内容は多岐にわたるため、細かいところまでは言及できませんが、当科で実施している手術の具体例をお示します。関節リウマチやその他の疾患で変形した手・足の変形でお悩みの患者さんがおられましたらお気軽に相談にお越しください。

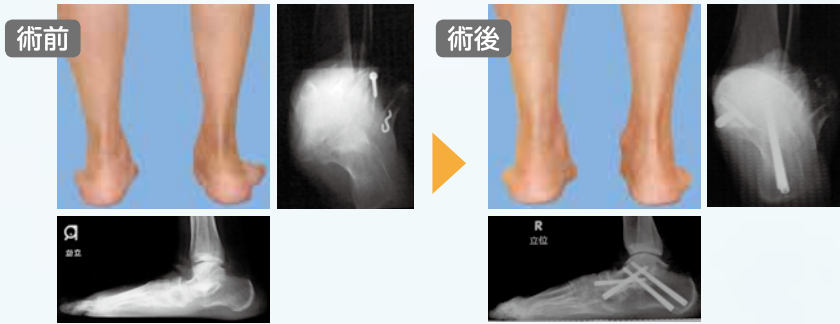
手指、手関節変形例(50歳台女性)



足部変形例(60歳台女性)



右距骨下関節破壊による右外反扁平足症例(60歳台女性)



今月の先生

岐阜市民病院 形成外科

おおの よしゆき  
**大野 義幸**

○専門分野

手外科、肘関節外科、足の外科、末梢神経外科、微小血管外科、形成再建外科

○役職

形成外科部長

○主な資格、認定、所属学会

日本手外科学会専門医、指導医、代議員  
日本肘関節学会評議員  
日本形成外科学会専門医、指導医、マイクロサージャリー指導医  
日本整形外科学会専門医、脊椎脊髄病医  
足病認定師(日本フットケア・足病学会)

日本体育協会公認スポーツドクター

日本足の外科学会会員

日本マイクロサージャリー学会会員

日本リウマチ学会会員

他

○卒業年、主な職歴

昭和60年 三重大学医学部卒業

昭和60年 岐阜大学医学部付属病院整形外科入局

平成12年~23年 同手外科、形成外科診療班主任(臨床教授)

平成24年1月~ 現職